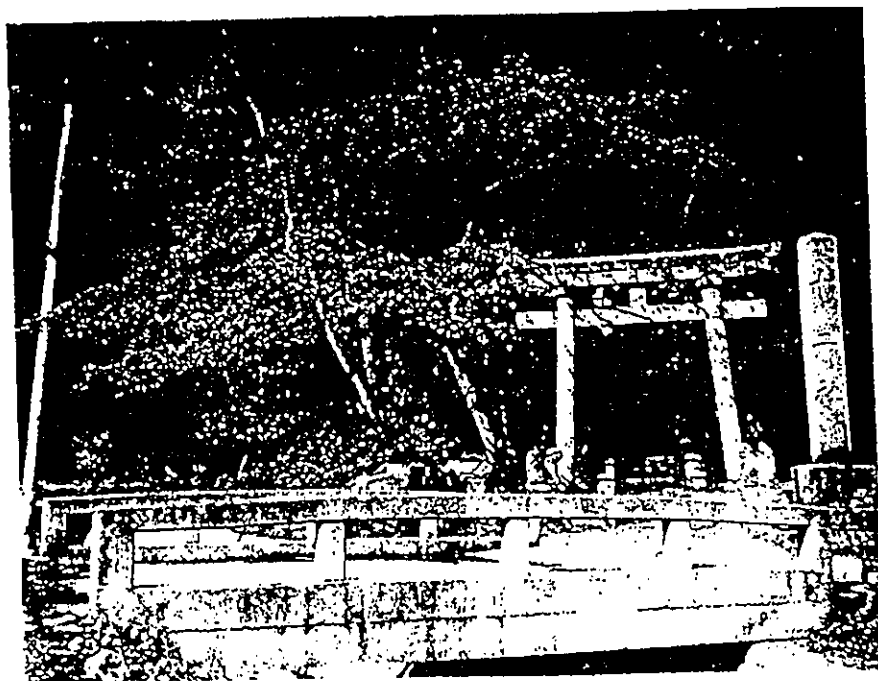
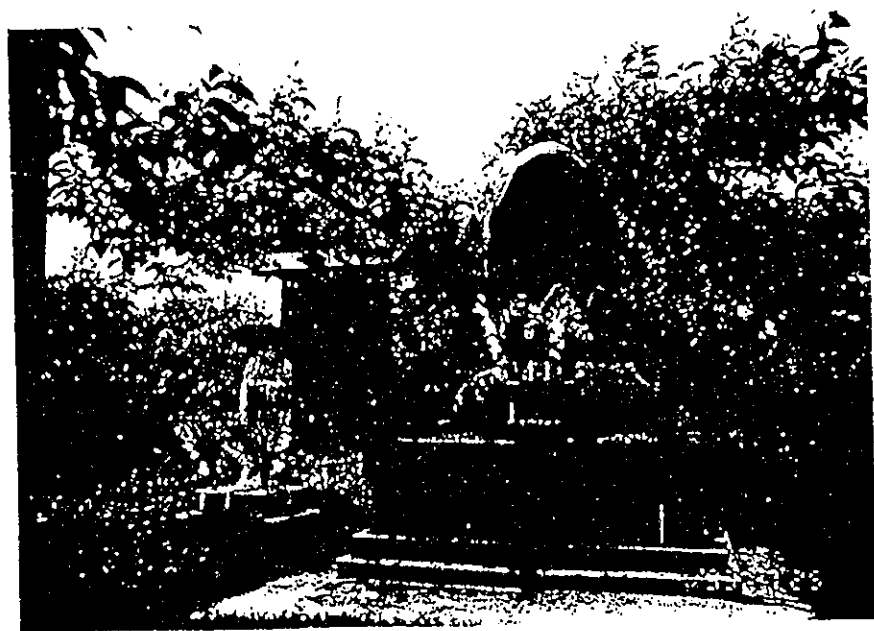


灰爪村落誌資料



灰爪 十二社



北越戊辰の役当処戦没者供養塔



北陸道鎮撫 御総督府

昭和五拾六年拾貳月貳拾一日 金沢市図書館

より

勢藩より指出候兵隊の内、水野徳三郎一小隊並び大砲一門、越後柏崎
駅江、出帳罷在候処去る十二日妙法寺駅江出兵、坂田口要地に付、
斥候指出防御し手当いたし候様、参謀役より申談に付翌十三日辰刻
右坂田口江出兵砲台をきづき築防守之手配いたし、同夜砲台邊に夜陣
を張り候処賊徒追々繰込候邸躰注進に依て猶嚴重守備罷在候処
十四日辰之刻頃、灰爪村に賊徒屯集、長州隊出発に付、為応援迅速に
兵纏め山田村繰結大砲、二弾連発依て（平成二年着弾位置調査）
一発は上山田村一本杉に当たる、もう一発は榎田の田の中に在ると聞
く、

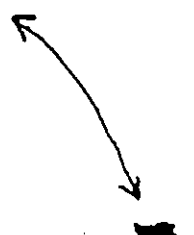
賊徒逃亡、灰爪村江、進撃それより徳三郎半隊引き纏め山之手へ引退
く賊徒の跡ヲ進撃芝処不支逃げ去る故、軍を止、申の刻石地駅依り繰
込、薩州、高田、両藩共攻撃中、諸隊一つニ相進みに付賊徒恐怖防戦
に不耐周章致し、敗走候依て惣人数不残戊之刻頃同駅江辰之刻頃惣勢
、出雲崎進軍仕候処、賊徒不居合依て薩州勢は宮本駅江引揚、徳三郎
一小隊、及び高田隊は石地駅に本陣相定、時々出雲崎へ斥候仕候様、
参謀役より申談に付固く罷り在り候処去る十六日葛田村前にて新潟
出生之者一人召し捕糺し処歩兵之段申聞候間、柏崎本営江引き渡し申
候右等之趣御届申上候以上。

辰五月、 前田御名内 渡瀬守馬

北陸道鎮撫、 御総督府

至之辨。世法。藥劑。救之解。
藥劑。度河。到。柳。毒。到。亦。也。
亦。用。以。治。者。未。多。也。不。位。是。亦。
出。陣。中。見。到。者。漫。所。發。亦。愛。
確。分。定。所。發。亦。然。在。今。也。拍。
崎。明。也。妙。法。也。村。下。時。刻。
靈。化。也。也。可。被。也。人。所。原。所。
後。發。難。也。亦。在。也。也。不。手。療。
養。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

一、昨日戦争ニ付六番隊の内探
 索として黒田傳次郎、小川音左
 衛門、内山席之助指遣わす。
 一ノ坪村、別山村、灰爪村三ヶ
 所之村へ屯集し、浪徒の内灰爪
 村へ百四拾人罷在ル内、尾ノ内



急遽用立て難事成り度候
 診察仕仕右等様書致し候
 上

上

辰五月

赤坂文昌

流翰と云々様書指遣わす

昨日戦争ニ付六番隊の内探
 索として黒田傳次郎、小川音左
 衛門、内山席之助指遣わす。

一ノ坪村別山村灰爪村三ヶ所
 之村へ屯集し、浪徒の内灰爪
 村へ百四拾人罷在ル内、尾ノ内

別山之尖山有之処江砲台を構ひ、官軍拒し用意致し置き村に掃り酒食を致し居候処江田沢村へ官軍出張、右砲台を眼下に見卸す薬師山の半腹江官軍出張、灰爪村屯集之所江打ち込み、賊砲台江出る間無く其儘散乱、大砲壹挺其の外分捕有之死亡不詳候。尾ノ内村ニ首一ツ有之、田沢村の上の方より進撃、灰爪魚津村迄の間に大砲壹挺分捕り、一ノ坪村正法寺を本陣として武百四五拾人屯集罷在候処、右官軍之手進撃、本陣を焼き討ち、察三ヶ寺是亦焼ける。此の辺に四人の死人有之、一人砲疵、或人は内より出んとするところを討たれ候様子。葵紋付の胴乱捨て置き、袖印有之。

此の如く之由、

此の戦争に推谷の藩佐藤喜左衛門悉皆案内境山の本道……

別山ノ尖山有之処江砲台を構ひ、
 官軍拒し用意致し置き村に掃り
 酒食を致し居候処江田沢村へ
 官軍出張、右砲台を眼下に見卸
 す薬師山の半腹江官軍出張、灰
 爪村屯集之所江打ち込み、賊砲
 台江出る間無く其儘散乱、大砲
 壹挺其の外分捕有之死亡不詳候。
 尾ノ内村ニ首一ツ有之、田沢
 村の上の方より進撃、灰爪魚津
 村迄の間に大砲壹挺分捕り、一
 ノ坪村正法寺を本陣として武百
 四五拾人屯集罷在候処、右官軍
 之手進撃、本陣を焼き討ち、察
 三ヶ寺是亦焼ける。此の辺に四
 人の死人有之、一人砲疵、或人
 は内より出んとするところを討
 たれ候様子。葵紋付の胴乱捨て
 置き、袖印有之。

原凡急修村々一戸に大砲を提合請
 一坪村正法寺と本陣と一坪
 守備人七集五五五五五五五五
 手近警本法を焼寺容事三寺
 是亦焼此此此此此此此此此
 砲祇沙人之内方おこルル此此此
 相子葵紋付一羽丸袴色神平也
 〇 付くゆく中付戦争に推言度
 依反在蓋志皆事内境山と本道

戊辰戦争灰爪別山口の戦い

古文書により書き記す

慶応四年五月十二日

市之坪

出雲崎本隊より東軍（水戸諸生党が主力で一部会津藩士）は市之坪正法寺を本陣として灰爪・薬師峠へ前進

薬師峠

東軍八十余名尖兵を薬師峠に出し、外は峠・言生津の民家三軒に分宿した。
（惣左衛門・惣八・仁兵衛宅）

灰爪

東軍百五十名ばかり灰爪向平に陣地を構築し西軍の攻撃に備えていた。

五月十三日

坂田村

別山村の庄屋が坂田村田満寺に宿泊中の西軍高田本陣に東軍の布陣を通報した。これを受けて高田藩は直ちに妙法寺の西軍本隊長州藩へ報告した。

西軍本隊では坂田村要地に斥候を出し、加州藩水野徳三郎一ヶ小隊並に砲一門を坂田村へ出兵、砲台を構え野陣を張り警戒に当たった。

五月十四日 雨

坂田村

早朝五時長州一ヶ小隊妙法寺駅より灰爪村へ繰り出し、加州水野隊もこれに加わり進撃した。

灰爪村

十二日より東軍百五十名ばかり向平に陣地を構築していたところ本日早朝逸

速くこれを察知した西軍は桂谷藩佐藤喜左衛門の案内で田沢村・尾之内村の村境に大砲を構え、これを連発しながら徒歩部隊は上山田側より急襲したので向平は大激戦となり、東軍では死者続出して、その数五十数名に達した東軍は遂に後退を決意して市之坪・石地方面を通り出雲崎本隊と合流すべく此の地を去った。

石川県立金沢図書館保有の古文書「加州藩（金沢）戦闘報告書」より

五月十四日

薬師峠

五月十二日東軍は別山村荒谷口へ八十名ばかり止宿して薬師峠に陣地を構えていた。折から大雨の為冷氣甚だしく

会津藩（若松記）井上哲作戦争日記略記 復古外記より写す

井上哲作外九名を残し候処十四日夜明け七八丁先迄敵襲い来り候故、胸壁に一人ずつ配り置き吉生津村へ数回鈴木類之進遣わす。其の後も度々使い遣わし候へども援軍来らず、西軍六道へ一纏めに相成り、平押しに来り候へども此方より発玉一発も過たず十人ばかりも打ち倒し候も味方の無勢を見抜き 候や死人並に斃れし者を乗り越し進み来り九人の内半隊頭宗像虎四郎予が前に来り申聞候には御覚悟の体には候得共、九人ばかりにて奮

市之坪

戦いたし候とて何程の利あつん。此場所を引揚げ候とて腰抜けと申には有之間敷く、臨山へ退き組の者不残揃い其の上接戦然る可し。しかしながら御覚悟の上は余とて同様如何、と談判に及び候内余笠を打ち貫かれ又脇の下を撃たれ早手詰めに相成り、九人の者必死の働き致し候へば敵進み兼ねその隙に漸く引揚げ、實に駆飛にて引揚げ申し候。渡部組は脇の山の上に陣す。敵襲来候を脇より打ち掛かり候へば敵進み兼ね、その隙に総人数灰爪迄引揚げ田村臘助始め談判に及び候内、椎谷方より三百人ばかり繰り出し、我々ども退陣致しおり山の下通り候様子に付潜伏し残らず打ち止め呉んと皆々勇んで待ち受け候処敵早くも悟り候哉又椎谷の方に引き戻り候。就いて組の者散を集めて暫く休憩、総人数大いに疲れ殊に度々敗走人氣もいあい不申候に付き市野坪村へ陣候 堤兵衛隊と兵を合わせ、関原村敵陣所へ打ち掛かりて然るべしと評議一決し、直ぐ様総人数市野坪村へ罷越し堤隊は寺へ屯す。田村隊は右寺へ屯す。我が隊は寺より五六丁脇、庄屋宅へ屯す。暫く休みおり候処敵又々襲い来り、水藩本営の寺山上より打ち掛け、山の高さ六七十間位の小山にて水藩討ち死に、手負い数多これ有り、我が隊も応援す。水藩大いに奮発、其の山上へ白刃抜き打ち、倒され倒され遂に駆け上り、敵を追い払い其の際に総人数出雲崎迄引上げ申し候。味方の混雑は申すばかりなく乗船して寺泊へ引揚げ水藩は弥彦村迄引揚げ候

五月十四日

西山町史より彈氣山の激戦

官軍は石地高塩山砂浜から大砲で石地総攻撃を始めた。市川勢を中心とした賊軍は懸橋の崖で防戦した。水戸藩・市川三左衛門については出雲崎夜話と春風雨録に次のように書いてある。市川三左衛門（変名 久代三郎兵衛）等六百名ばかりで越後に入り、柳組と称し四月三日市川外十数名で出雲崎陣屋に来て陣屋引き渡しを強要し（中略）四月廿日会津から再び領地引き渡し要求が出雲崎陣屋に来る。これが為長い間領地・陣屋引き渡し要求を退けてきた留守役篠原は遂に代官所を明け渡すの止むなきに至り、出雲崎陣屋は市川等の手中に入った。此の日末明 坂田・内郷方面を狙っていた加州軍は一挙灰爪の会津勢を大砲で不意打ちにかかった。不意を衝かれた会津勢は狼狽して石地懸橋寺へ敗走した。更に官軍は進んで別山口の水戸勢を間道から不意に攻撃した。此の時である。四五百人の賊軍は薬師峠を固守していたので、官軍の参謀は関原に出ている高田藩の家老竹田十左衛門に命じて薬師の賊軍を討伐させた。竹田家老は早速若干の薩長兵を加え出発、薬師峠の賊兵と交戦して撃退賊兵は破れて三島郡市野坪の、正法寺に拠ったので此処で更に激戦、賊は同寺に放火して出雲崎へ逃げたので竹田隊は更に急転、石地の彈氣山に来た。彈氣山は懸橋寺の上にある。味方の官軍は高塩浜から大砲で懸橋寺の崖の市川勢を討つ。市川勢は頑

強に抵抗している。市川勢を眼下に見下ろした竹田隊はここぞとばかり小銃を乱射し掛けた。銃丸は全く雨霰のように飛んで市川勢に当たる。流れ弾は、まま街道の松並木にも当たった。(弾痕のあった松は第二室戸台風で倒れた。)容赦なく落下する頭上からの銃弾ではたまったものではないさすがの強豪市川勢も此処で脆くも負けて戦死者一名を出し、遂に出雲崎へ逃走した。

東軍戦死者五月十四日越後国羽郡灰田村

水戸藩使番 弓削左内 水戸藩 杉山松之助 水戸藩 木村仙太郎

小納戸 谷田部八介 鈴木祐蔵 君嶋百平

先手物頭 宮田三郎介 鈴木庸之介 加藤幸吉

目付方下役 松尾龜八 鈴木伴七 郡奉行 岡野莊七郎

徒目付 松本富吉 先手同心 高安與衛門 寛平三郎

松本辰三 武留寅之介 小十人 片山丑三郎

益子弥平太 大番 鈴木鉄一郎 同右 大木藤一郎

堀井莊次郎 目付方下役 鈴木新五郎 馬廻 大森金六郎

小十人目付 福田律蔵 白石熊弥太 小十人徒士 大久保貞蔵

引田政平 佐々末吉 与力 氏川安三郎

町同心 平戸直蔵 先手同心 小池兼蔵 与力 宇野秀五郎

与力 塙富太郎 郷士 後藤久米之介 神職 海野志摩

小十人 橋詰酉松 草根勘蔵 岩間善吉

辻嶋健蔵 郷士 後藤言兵衛 今村喜左衛門

千賀惣太郎 宮地蔵介 郡奉行 石川源次郎

杉田三人 三代造酒之介 徒目付 磯野利三郎

町方勤 杉山七次郎 郡方勤 桑名久三郎 岩崎勝次郎

中奥番 阿部惣太郎 加藤太郎兵衛 奥岩勘助

戦死者名は水戸藩史より

